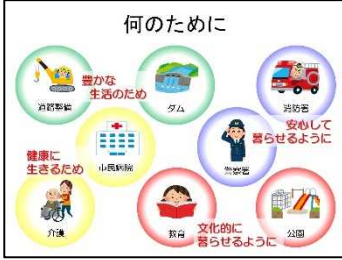


小中学生講義用テキスト《講義型》解説書

スライド	解 説
<div data-bbox="161 546 504 801" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="161 976 499 1229" data-label="Text"> <p>今日のお話</p> <ul style="list-style-type: none"> • 税金はなぜ必要なの？ • 日本の財政と課題 • 公平に集めるって？ • 公平に使うって？ • 税金から見た民主主義 </div> <div data-bbox="161 1406 504 1662" data-label="Text"> <p>税金を通して 学んでほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>思いやり</u> • <u>私たちが主人公</u> </div>	<p>※ 授業開始前</p> <p>機材準備や資料の置き場所等の確認のため、授業開始の直前ではなく、余裕をもって学校に到着するようにしましょう。学校の先生の承諾があれば早めに教室に入り、クラスの雰囲気に馴染めるよう、児童生徒とコミュニケーションをとりましょう。</p> <p>《自己紹介》</p> <p>自己紹介は、児童生徒との最初の接点です。明るく、元気に、さわやかに、児童生徒の気持ちを一気に引き付ける気構えで始めましょう。無理に盛り上げたり、笑わせたりする必要はありません。得意な方法で児童生徒の心を掴んでください。そして一緒に考え、誠心誠意伝えていくことを心がけましょう。</p> <p>《テーマの発表》</p> <p>学習の内容を最初に伝えておくことは、とても重要です。今、何について勉強しているのか、常に意識してもらいましょう。</p> <p>《租税教育の目的》</p> <p>租税教育は、児童生徒に国民として必要な税の仕組みを理解してもらおうと同時に、税を題材として社会を考えることで個人と社会との関係について考察を深め、自由・権利と責任・義務の関係を考え、民主主義の本質についての理解を深めてもらいます。</p> <p>そして、民主的な国家・社会の形成者としての自覚を促し、社会的責任や義務を果たそうとする意識を持ってもらい、社会生活において、多面的に考え、公正に判断する力を育み、国民権を担う国民として積極的に社会参画することの重要性を理解してもらいましょう。</p>

税金はなぜ必要なの？



税金クイズ①

次のうち、税金で負担した公立の小学生1人あたりの年間教育費はいくらでしょうか？

- ① 約30万円
- ② 約60万円
- ③ 約90万円

I. 税の意義・役割

《税金の意義（問題提起）》

一人しかいない世界で生きるのであれば、税金は必要のないものです。しかし、実際の社会の中で、みんなと生きていくのであれば「きまり」は必要であり、みんなが幸せになれる社会にしていくため、みんなで支える「仕組み」が必要となります。税金は、その最たるものです。

しかし児童生徒の多くは、税は「自分たちの生活に必要なもの」とは思っていない。まずは税の否定的なイメージを払拭して、税は「自分たちのためにあり、自分たちで支えていくもの」ということを理解してもらいましょう。

《税金の身近な使途》

税金の使い道を、身近なところから知ってもらいましょう。このほか「国際協力」や「防衛」、「科学振興」などにも使われていることに触れることで「これだけではないんだ」と、児童生徒のイメージを膨らませる工夫をしてください。時間に余裕があれば、「このほかにも、みんなの周りで税金が使われているところは、たくさんあります。思いついた人、手を挙げてみてください」などと、児童生徒に考えさせて挙手を求めるとよいでしょう。

《税金の意義（具体例と目的）》

みんなが「豊かに、健康に、文化的に、安心して」暮らすために使うものであり、自分たちで支えていくものです。

《年間教育費》

このあたりになると児童生徒の集中力も途切れてきます。例えばじゃんけんクイズなどをして、児童生徒に体を動かしてもらい、集中力を維持しましょう。

※ 小学生用と中学生用で、パワーポイントのクイズの数字が異なりますのでご注意ください。

税金がなかったら



税金はみんなのために

税金は… みんなが負担して
みんなのために使う
みんなの幸せのために



財政の現状と今後の課題

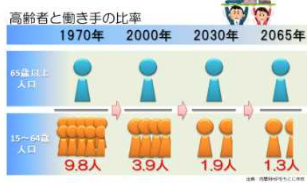


日本の財政

令和5年度一般会計当初予算



少子高齢化



今後の課題

解決方法は

1. 増税して収入を増やす
2. 支出を減らす
3. ……



《もし税金がなかったら》

断定的な言い方を避け、「かもしれない」と可能性があるという表現にしています。

《税金の意義（まとめ）》

税は「自分たちのためにあり、自分たちで支えていくもの」ということを理解してもらえたかを確認してください。

テーマの最後では、必ず理解の確認をしましょう。

II. 財政の現状と今後の課題

《財政の現状と課題》

財政赤字・少子化等、現在の日本が抱える課題に触れながら、民主主義・国民主権の見地から租税立法のあり方や税金の用途等について関心を抱き、公正な判断力を備えた国民として成長できるよう、児童生徒が自ら考えるきっかけを作ることを目的とします。

※ 少子高齢化のスライドは中学生用パワーポイントのみです。

税金クイズ②



日本の主な税金は、何種類くらいあるでしょう？

- ① 約20種類
- ② 約50種類
- ③ 約100種類

税金の集め方

キーワードは
「公平」

公平に集めるって？

どうやったら、公平に集められるかな？

- ・みんなから同じ金額？
- ・多く持つ人が全額負担？
- ・みんなから同じ率？
- ・負担能力に応じて？



どうしたらいいの？

①みんなから同じ金額を集める

	持っているお金	集めるお金	残り	
Aさん	700	100	600	みんな同じ金額だから平等よね！
Bさん	250	100	150	皆でAさんと同じ金額なの！
Cさん	50	100	-50	払えないよ！
計	1,000	300	700	

②特定の人だけが全額負担する

	持っているお金	集めるお金	残り	
Aさん	700	300	400	私だけ払うの？
Bさん	250	0	250	ラッキー
Cさん	50	0	50	ラッキー!!
計	1,000	300	700	

III. 税金の種類と仕組み

《税金の種類》

税を通して社会を考えてもらうことが目的です。

はじめに、なぜ50種類もの税目があるのか疑問を持ってもらい、その答えは「税金の集め方」を通して学んでもらいます。

「公平」について考えてもらうため、50種類もの税目があるのは、「たくさん税目を組み合わせることで、立場や意見の違いを調整して、全体として、できるだけ公平な負担を実現させるための仕組み」であることを理解してもらいましょう。

《税金の集め方》

「公平」を理解してもらうため、四つのパターンに分けて説明していきます。

【ポイント】 次のことを児童生徒に体感してもらいましょう。

- ・立場の違いにより「公平の感じ方が異なる」こと
- ・立場の違いから生じた「対立」をどのように「合意」にもっていくのかということ

これらを意識して伝えていくようにしましょう。

《①みんなから同じ金額を集める方法》

「公平」を考えるために、まず「平等」を例に挙げています。

児童生徒の多くは、平等と公平は同じことだと思っているため、平等と公平の違いに気付いてもらいましょう。

《②特定の人だけが負担する方法》

この後に「応益負担」を説明するために挙げています。

児童生徒に「Aさんだけが負担するなんて不公平だ」と思わせることもポイントです。

③みんなから同じ率で集める

	持っているお金	一律30%	残り	
Aさん	700	210	490	
Bさん	250	75	175	
Cさん	50	15	35	<small>まだキツいよ！ 生活できない！</small>
計	1,000	300	700	

《③みんなから同じ率で集める方法》

この後で「税率」の概念を説明するために挙げています。

④負担する能力に応じて集める

	持っているお金	累進税率	残り	
Aさん	700	245 (35%)	455	<small>しょうがないか！</small>
Bさん	250	50 (20%)	200	<small>これは公平ね！</small>
Cさん	50	5 (10%)	45	<small>これなら払える！</small>
計	1,000	300	700	

《④負担能力に応じて集める方法》

後の解説で「累進課税」の概念を知ってもらうために挙げています。

どれが公平な集め方？



- ①みんなから同じ金額を集める方法
- ②特定の人が全額負担する方法
- ③みんなから同じ率で集める方法
- ④負担する能力に応じて集める方法

《公平な集め方とは》

『どれが公平な集め方なのか？』と児童生徒に問いかけてください。ここが租税教育の特に重要な部分です。

税を題材にして「公平」を考えてもらうことは、租税教育における重要な学習支援の一つです。

- ・公平にはいろいろな考え方があること
- ・平等は必ずしも公平ではないこと
- ・公平は不公平と背中合わせにあること
- ・立場が変われば公平の感じ方も変わること

これらについて、時間をかけてじっくり考えてもらいましょう。

それとともに、AさんとCさんによる「対立」が「合意」になる過程で個人の尊厳と人権を尊重する大切さを感じてもらいましょう。

いろいろ組み合わせたら公平かな？

みんなから同じ金額を集める	
特定の人が全額負担	
同じ率で集める	
負担する能力に応じて集める	

《税金の組み合わせと公平》

それぞれのパターンに該当する税目を挙げていきますが、税の種類を覚えてもらうことが目的ではありません。

それぞれの税目の性質を簡単に説明しながら、いろいろな「公平」があることを、理解してもらいましょう。

多くの税目は、それぞれが公平の概念に基づき制定されているものの、

税金の使い方

キーワードは今度も
「公平」

公平に使うって？

どうやって、公平に使えるかな？



- 豊かな生活のため？
- 健康に生きるため？
- 文化的に暮らせるように？
- 安心して暮らせるように？

むずかしい！

豊かなまちづくり①

健康で文化的・豊かな生活をおくるために必要なものは何？



豊かなまちづくり②



豊かなまちづくり③

みんなの将来だから、税金を何に使うのかよく話し合って決めることが大事だよ。

決めたことは、みんなにはね返ってくるよ。

誰一人一人が主人公だから…

答えは…



単独の1税目だけでは公平な負担は実現できません。

そこで、いろいろ組み合わせることで、立場や意見の違いを調整して、全体として、できるだけ公平な負担を実現させる仕組みとなっている、ということを理解してもらいましょう。

「所得」という言葉は、児童生徒の理解度に応じて「儲け」や「利益」などの簡単な言葉に置き換えてください

《税金の使い方》

税金の使い方でも「公平」という言葉を使っています。

「公平に使う」という説明については、様々な意見があると思いますが、「公平に集めて、公平に使う」という一連の流れのほうが、児童生徒は理解しやすいと考え使用しています。

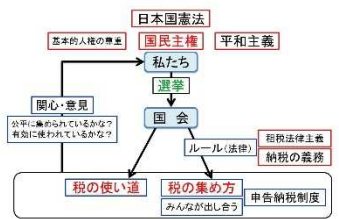
「みんなの合意を得られる、みんなが納得する使い方」という意味で、ここでは使っています。

立場や考え方の違いにより、社会では意見の対立が生じます。

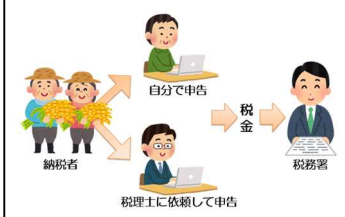
限られた財源を有効に使うという命題について、公平に考えたうえで合意に導くことの大切さを感じてもらいましょう。

次のキーワードは
「民主主義」

税を通して民主主義を考える



申告納税制度



宿題

- ・思いやり
- ・私たちが主人公

期限：大人になるまで

《民主主義～「私たちが主人公」・「思いやり」》

「税金は法律であり、法律は国会で決まる」ということから、自分たち国民の意志で決めているのだと確認してもらいます。

また「租税法律主義」や「国民主権」を考えてもらい、積極的に社会参画する重要性を理解してもらいましょう。

また、納税の義務をどのように解説するのは、とても重要なことです。国民すべてに納税の義務を負わせているのではなく、法律の定めるところにより納税の義務を負うこと、民主主義を保持するため、社会の一員として責任・負担を負うことを説明します。

完成図を見ながら、民主主義の仕組みを確認してもらいましょう。「税」を通して問題意識を持たせ、主権者として積極的に社会に参画することの重要性を考えさせましょう。

《申告納税制度》

申告納税制度は、国の税金について納税者が自ら税金の計算をし、税務署へ申告・納税する制度であり、税体系の中で一番根本になる重要な概念です。

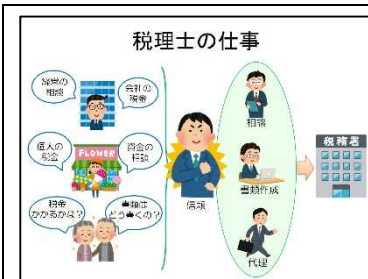
《今日の授業で覚えておいてほしいこと》

社会を支える一員であることを自覚してもらい、様々な問題に関心を持ち、自身のこととして考えるきっかけを作ってください。

税に対する知識を深めてもらうと同時に、税を題材にして社会を考えてもらうことにより

- ・公平について考え
- ・民主主義の理解を深め
- ・積極的に社会参画する自覚を芽生えさせる

このような租税教育を実践してください。



《税理士の仕事》

税理士の仕事の説明は、最初の自己紹介時にする場合も多いと思いますが、申告納税制度の説明後の方が理解しやすいことや、時間の関係で省略しやすいことを考慮し、最後に持ってきています。最初に説明する場合は、入れ替えて使用してください。

講師の皆様へ

税理士が行う租税教育は、単に「税金を納めましょう」という納税教育ではありません。

税を通して社会の仕組みを考え民主主義全般に関する理解を深め、租税の意義・役割、課税の公平、租税法主義、民主主義における納税の意義などを理解してもらいましょう。

そして、申告納税制度の理念のもと租税について深く考え理解する力を育み、租税教育を通じて、国民一人一人が社会のことを考え、公平な課税を実現するための租税法のあり方や税金の使途等について公正な判断力を備えた国民に成長してもらうことを目的としていることを忘れないでください。